



天を造り出し、  
これを引き延べ、  
地とその産物を押し広め、  
その上の民に息を与え、  
その上を歩む者に  
霊を授けた創造主は  
こう仰せられる。  
わたし、主は、  
義をもってあなたを召し、  
あなたの手を握り、  
あなたを見守り、  
あなたを民の契約とし、  
国々の光とする。

# 昆虫学者 ファーブル の姿勢 進化論者 ヘッケル の姿勢

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実



絵／「チャールズ・ドーンソンらとピルトダウン人の頭蓋骨」  
後列左からF. O. パーロウ、解剖学者エリオット・スミス卿、  
発見者チャールズ・ドーンソン、古生物学者アーサー・スミス・  
ウッドワード卿。前列左からA.S. アンダーウッド、解剖学者・  
人類学者アーサー・キース卿（白衣の人物・古生物学会事務局長、  
ロンドン地質学会会長、ロンドン自然史博物館職員）、骨学者・  
動物学者W. P. パイクラフト、動物学者レイ・ランケスター卿。  
肖像画はチャールズ・ダーウィン。  
出典 Wikipedia. ジョン・クック画 1915年

自然選択の法則とその範囲の広さに私は感銘を受ける。しかし、その法則を事実に適用しようとする度に、私を混乱の中に置き去りにする。それは事実の解明には全く役に立たないからだ。理論としては立派でも、現実の前には泡に過ぎない。その法則は荘厳だが不毛である。では、この世界の謎に対する答えはどこにあるだろう。誰が知っているだろう。誰に分かるだろう。

根拠のない理論では闇を払えない。闇の中でこれ以上時間を無駄にするのはやめようではないか。事実に立ち返ろう。謙虚な事実に。それこそ我々の足元がすくわれることのない唯一の基盤なのだから。<sup>1</sup>

ジャン・アンリ・ファーブル（昆虫学者・植物学者・物理学者・化学者）

## ファーブルとダーウィン

ファーブルは、著書『昆虫記』で多くの人に親しまれていて、昆虫学の父とも呼ばれます。彼と同時代を生きたダーウィンも彼と親交がありました。ダーウィン自身も著者『種の起源』などで、彼を「たぐいまれなる観察家ファール

ル」<sup>2</sup>と高く評価して紹介し、その研究成果を自然選択説の裏付けとして引用しました。

しかし、ファーブルが自然選択説の視点から生物を観察すればするほど、その説は受け入れられなくなっていきました。それは現実を全く反映していなかったからで

す。上記のことばは、まるで敬愛するダーウィンに対する呼びかけのようです。彼はダーウィンが机上の空論に走るのを止め、観察される事実を土台に考えようと呼びかけ続けました。彼はダーウィンから出された宿題『性選択説』を観察に基づいて検証し、それが誤



写真/ジャン・アンリ・ファール

りであることを知らせる手紙を書いている時に、ダーウィンの訃報に接したのです。<sup>3</sup>

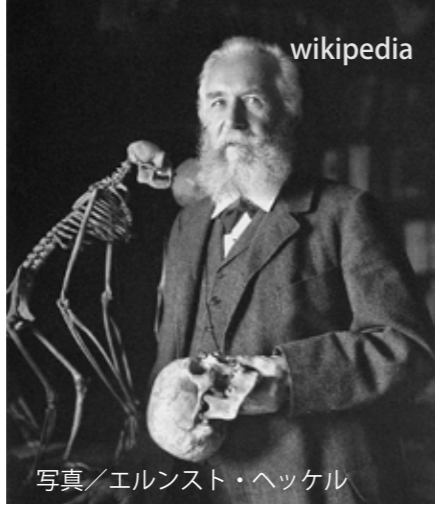
ファールは、生物の生態や個々独特のすばらしさを観察するにつけ、これらが進化して出現したのではなく、最初からそのように造られたとの確信を深めていったのです。

ノーベル賞を受賞した本庶佑博士は、その受賞会見で教科書を鵜呑みにするのではなく、自分で観察し、本当はどうなのかを考えることの重要性を、現代を生きる私たちに訴えています。<sup>4</sup> これは、ファールの考えと相通ずるものがあるのではないのでしょうか。

### 観察できない進化論

科学者たちは自然の中に見られる現象や事象に関してなぜそうなのかを研究しています。ある事象に関してなぜそうなったのかを想像し、その想像に基づいて仮説を立て、実験観察を通してその仮説を検証します。しかし、進化論は実験も観察もできません。誰も生物の進化の歴史を観察も再現もできる人はいないからです。

しかも進化論の土台が築かれた18世紀から19世紀は、科学技術も自然界に対する知識も現在と比べると非常に幼かったと言えるでしょう。遺伝子も発見されておらず、メンデルの遺伝法則は進化論と矛盾するために認知されず、生



写真/エルンスト・ヘッケル

物の細胞の働きもほとんど理解されていませんでした。観察される事実から離れて信仰のように進化論は広く受け入れられていったのです。

ドイツで進化論の旗手となったエルンスト・ヘッケルは、自ら信奉する進化論を広めるため、さまざまな証拠を捏造しました。

1866年には、発生反復説(図1)を提唱しました。これは、人の場合は、胎内で魚段階、両生類段階、爬虫類段階を経て哺乳類段階に入り、猿の段階と進化の歴史を反復して最後に人として生まれてくるという説です。その証拠とされた図が実際と違う(図3)ことは、当時の科学者たちに指摘され、1909年に彼は捏造を認めました。<sup>5</sup>

しかしこの発生反復説は、捏造発覚から100年以上経った現在でも進化の証拠として教科書に載り、未だに教えられています。

ヘッケルはまた、1866年に進化系統樹(図4)を発表しました。それはただ進化論で推測されるように生物を並べただけで、このような進化を観察した人は誰もいません。また、彼が想像した原始アメーバ『モネラ』も含まれていません。系統樹は、進化論を信じさせるのに役立つため、教科書にも掲載され続けています。

ヘッケルは、化石など一片の証拠もなくヒトの祖先を想像して画

図1/ヘッケルが発生学の教科書に掲載した発生反復説の証拠の図。後に捏造が発覚。

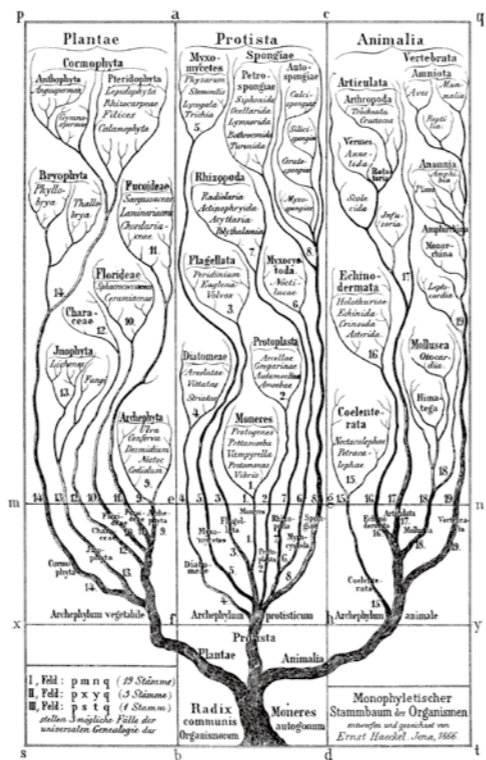


Fish Salamander Tortoise Chick Hog Calf Rabbit Human  
魚 山椒魚 亀 鶏 豚 牛 兎 人



出典/目からウロコの進化論

図3/1866年にヘッケルが描いた進化系統樹



wikipedia

家にその絵を描かせ、『話せない猿人』ピテカントロプス・アラルス(図4)という学名を与えました。古人類学者GHR・フォン・ケーニヒスヴァルトは、この絵画に基づいて「この猿人は、二人とも話せなくても、幸せな結婚であったらう」と解説しています。<sup>6</sup>

一方、病理学者のルドルフ・ウィルヒョウは、存在も証明できない想像上の猿人に学名さえ与えたことを、科学に対する冒涇だと辛辣に批判したそうです。<sup>6</sup>

### 葬られた人の祖先

教科書にはこれまで様々な進化の証拠が掲載されては消えていきました。1922年にネブラスカ州で発見された歯の化石は、アメリカ人の祖先ネブラスカ人(図5)のものとされましたが、1925-1926年にさらに骨格が発掘された結果、それが野生の豚の歯だったことが明らかになりました。

イギリス人の祖先として発表され脚光を浴びたピルトダウン人(図6)は1909年に発掘され、当時英国でも著名な科学者たちによって研究されました。その様子は絵画にも描かれています(表紙の絵)。

しかし1949年、オックスフォード大学のケネス・オークリー率い



wikipedia

る研究チームの化石調査によってこの捏造が発覚したのです。人の頭蓋骨にオランウータンの下顎骨がきちんとはまるようにヤスリで削られた痕も付いていました。<sup>7</sup>

ダーウィンと同時代、ファールのように他人の意見に押し流されず観察される事実によって堅実に真実を追求しようとする人は、もっといなかったのかと残念に思います。ネブラスカ人もピルトダウン人も教科書から今は姿を消していますが、1970年代には小学校の教科書で進化の証拠として教えられていました。

440万年前のヒトの祖先とされたアウストラロピテクス・アファレンシス(アファール猿人)の名も今では教科書から消えています。発掘された時はサルの骨盤の形状だったものが、ヒトの骨盤の形状に変えられて直立猿人と発表されるなどいくつかの問題が浮上したことが原因でしょう。

現在のいくつかの教科書には、進化論で約700万年前と推定される猿人サヘラントロプス・チャデンシスとその想像図などが掲載されています。しかし誰も700万年前を観察した人はおらず、これも人の推測に過ぎません。

このように、進化の証拠とされたものは、新しい発見や問題点の発覚などによって現れては消えていきます。今の教科書の証拠も例外ではありません。しかしその



図5/1922年に豚の歯の化石から描かれたネブラスカ人の絵

時々の時代の教科書にある進化論の証拠を真正だと信じるなら、誤りを根拠に進化論を信じ込んでしまうのです。

もし進化論を信じるなら、「自分はアメーバから生存競争の中で進化してきた動物なのだ」という世界観が形成されるのです。その根拠となった証拠が誤っているとでもです。

### 最後の知恵

科学的に言えば、自然は人の好奇心をもってしても明確な解答の見出せない謎である。仮説には仮説が従い、ガラクタの理論の山はふくれあがり、それでもなお真理は私たちから逃れる。知る術がないことを知ることこそが最後の知恵の言葉となるかもしれない。<sup>8</sup>

ジャン・アンリ・ファール

人は、仮説を立てて事象を検証しようとしています。そして、その仮説と証拠に矛盾がなければそれを正しいとし、自分が真理に近づいたと考えてしまいます。しかし人がどれだけ真理に近づいたと思っても、科学技術の発達や新発見およびデータの蓄積によって、どんな仮説や理論も新しい仮説や理論に取って代わられる可能性があるのです。歴史上、それらがどれほど覆されてきたことでしょうか。今から100年後の人々から見たら、現代の科学技術は幼稚に見えるでしょう。

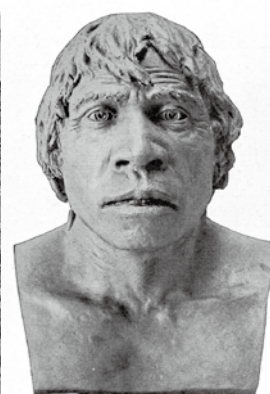


図6 ピルトダウン人像

証拠が捏造されたにも関わらず未だに教科書で教えられているヘッケルの発生反復説や、現れては消える進化の証拠を考えると、どんなに正しいと考えられていたものでさえガラクタに転じるかもしれないことを、謙虚に考えてほしいとファーブルは言いたいのではないでしょうか。

聖書のヨブ記には、今から約3800年前に生きていたヨブの科学知識が記されています。地球が球体であること、宇宙空間に浮かんでいることなど今日私たちが知っているのと同様のことをヨブは知っていました。しかし彼は、創造者から尋ねられます。

**わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。**

…あなたは天の掟を知っているか。地にその法則を立てることができるか。(ヨブ 38:4, 33) <sup>9</sup>

人は過去に起こった出来事を推測し主張することはできても、その観察者ではなくその証言もできません。私たちは過去の証言に基づいてしか実際に起こった出来事の確認を得られません。

人は実験観察してその法則を知ることができますが、すべては知り尽くせません。ましてや直接行って実験観察できない遠い宇宙の法令は、仮説に基づいて推測することしかできません。人はそれらを知ることはできても、定めることはできないのです。最後にヨブは、謙虚になって自分が知りもしないことさえ述べてしまった高慢を悔い改めるのです。

私たちは、科学技術が発達した時代に生きていると慢心していないでしょうか。現代科学で主張されている仮説や理論を根拠に「自分は知っている。自分は正しい。自分たちには科学技術がある」と。

ヘッケルは進化論を信じるあま

り、想像を膨らませ、ついには観察されない進化の証拠を次々と捏造していくようになり、遂には科学界から追放されていきました。

ファーブルは、観察に基づいて創意工夫を凝らしつつ『昆虫記』などを著して理解したことを伝え、ダーウィンと書簡を交わしながらも観察される真実の前に謙虚になって進化論の仮説が事実と反することを見分けました。そして彼は個々の生物の種類は創造されたと確信するに至ったのです。

ヘッケルのように証拠を捏造してでも信じることを主張しようとする姿勢と、ファーブルのように謙虚に観察して真実を見極めようとする姿勢のどちらで生きていきたいでしょうか。

#### 【引用文献・参考文献】

1. Fabre, J. H. *Bramble-Bees & others*, p.33
2. Darwin, C. 1859. *On the Origin of Species*. London: John Murray, 364.
3. Miall, B. *Fabre, Life of Jean Henri Fabre*, 285.
4. デイリー新潮, 2018年10月4日  
<<https://www.dailyshincho.jp/article/2018/10040631/?all=1>>
5. Grigg, R. "Ernst Haeckel" *Creation* 18(2):33-36, March 1996
6. *ibid.*
7. M, ルベナウ「人類の起源」創造科学研究会、1996年12月23日、p.76
8. Fabre, J. H., *More Hunting Wasps*, p.214
9. 聖書、新改訳 2017, 新日本聖書刊行会

## お祈りください

- ・コロナウイルスの流行のため対外的な講演活動がほぼ停止しています。講演活動の早期再開のために。
- ・養成講座を通して、創造を語る人が起こされるように。
- ・アジア圏での創造を伝える働きが前進する様に。

## 秋の創造セミナー中止

コロナ感染症が沈静化していないため、セミナーを中止します。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

## 献金のお願い

国内外に創造のみわざを伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

## 講義・イベント予定

### ■創造を伝える働き人養成講座

\*2021/11/8-9 @北海道/然別湖畔  
「教会へのヒューマニズムの影響」

### ■CFNJ 聖書学院

\*2021/11/15-17 @北海道/石狩

### ■日本信徒前進宣教大会

\*2021/11/25-27 @栃木/  
日光オリーブの里

### ■第四回全アジア創造

カンファレンス台湾大会  
2023年まで延期の予定

(台湾政府による外国人入国制限のため)

お問い合わせ・セミナーのご依頼は、  
ジェネシスジャパンまで

## 創造を伝える働き人養成講座

### 【募集要項】

- ・聖書の言葉が創造主の言葉だと信じる方。
- ・御子イエス・キリストを救い主と信じる方。
- ・創造を信じることの大切さを学び、伝えたいと願う方。



お問い合わせは、  
ジェネシスジャパンまで